浮かぶ、子どもの城

- 毛原小学校木造校舎活用提案 -

紀美野町長谷毛原には築 67 年の木造校舎が残っている。
新しいものでは表現できない古き良き校舎を
再び子どもたちの笑い声が溢れる場所にする。

●計画敷地

▲基壇上に校舎が建つ構成

▲南に面する半屋外の廊下

敷地は高野山の麓の山間集落である、長谷毛原地区に所在する毛原小学校元校舎である。
1954 年に建設され、2011 年に校舎としての役目を終えて以来、
明確な次の活用用途のない木造校舎に新たな姿を提案する。

●再活用用途

現在の長谷毛原

高齢化

教育施設の喪失

現在の子どもたち

忙しさ

便利さ

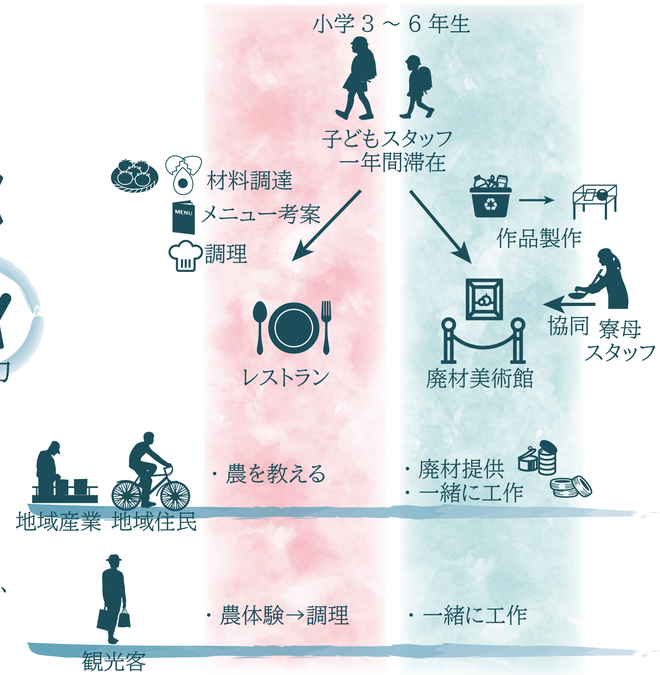
便利さ　大自然　生きる知恵

遊びの工夫　活力

お互いの特徴を活かした交流を図る、
「山村留学施設」計画

長谷毛原地区にはコンビニやスーパーのような便利なものはないが、
たくさんの自然と住民の方々の生きる知恵がある。
この環境は子どもたちの生活に工夫を生み出す良い環境である。

山村留学施設構想



遊びが生まれる植栽

■シュロ

シュロはかつて長谷毛原の産業を支えた植物である。大人は生計をたてるため、子どもは遊び道具にシュロを利用することが日常であった。

長谷毛原の山林の中に見られるシュロの木

■ざくろ、柿、梅など

季節を感じる、実と花のなる木を植え、子どもたちの五感を育てる。

■サツキ

木造校舎周辺の基壇の植栽の中心となっており、ピンク色の花は校舎の雰囲気と調和している。

廃材遊具広場

繋がる

廃材遊具広場には地域から集めたいらなくなったもので制作した遊具が並ぶ。

他地域の子ども

段々畑

校舎裏にある畑は現在地域の方の手が回っていない状態である。

協同で育てる

子どもたち

地域住民

観光客

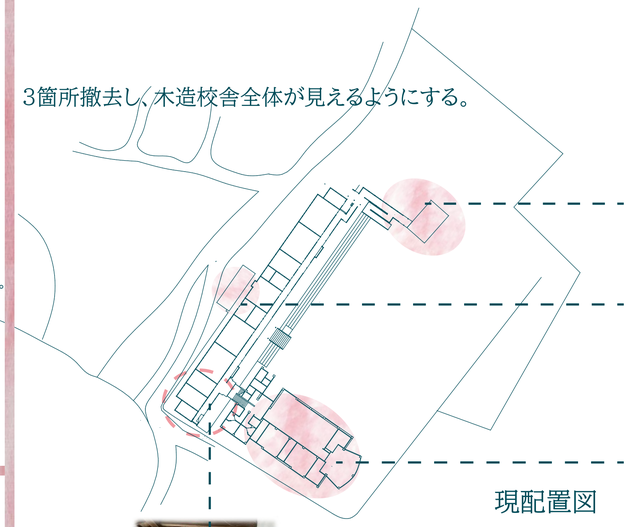
レストランの材料

縁側キッチンで調理・食事

●ダイヤグラム

1. 3箇所撤去する

3箇所撤去し、木造校舎全体が見えるようにする。



現配置図

倉庫(旧給食室)

給食室

RC造校舎

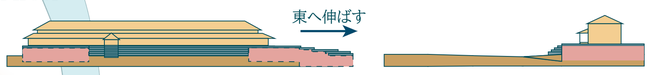
木造校舎西側は隣に建つRC造校舎の影となり、湿気が多く、コケなどの発生が進む。

2. 増築する 「浮かぶ木造校舎」

Before

計画地校舎は、運動場の上に基壇があり、その上に建っている。

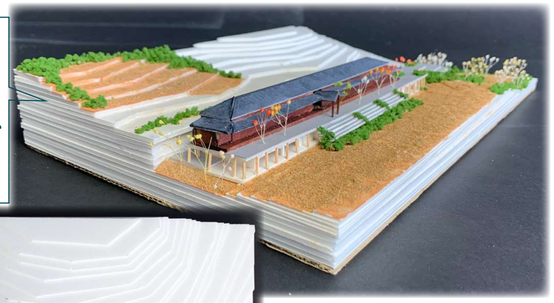
After



階段部分は残したまま、基壇部分をくり抜く。
また東側へ段差をつけて基壇部分を伸ばし、地下に新たな空間を創出する。

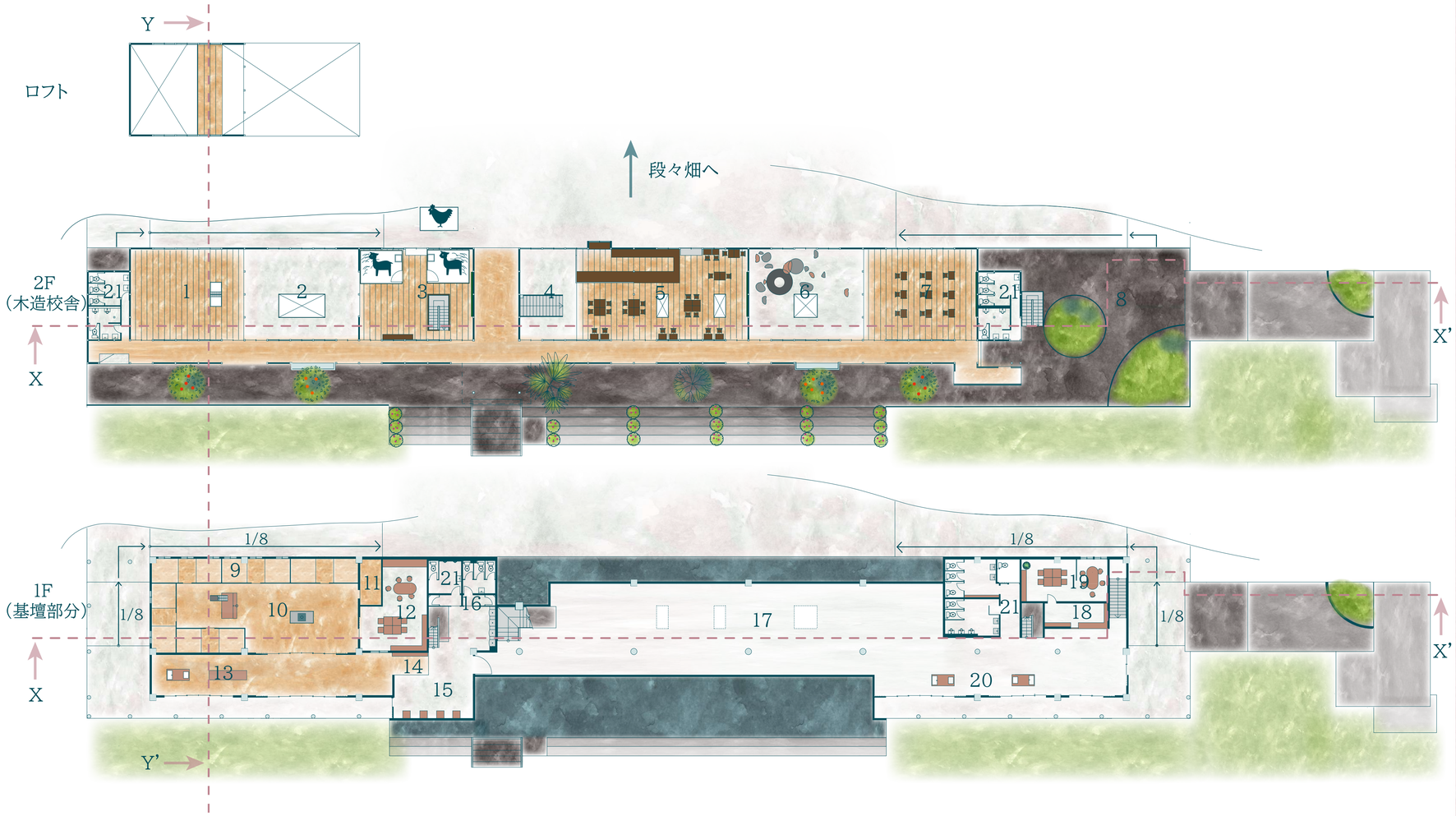
敷地模型南側から

運動場から緩やかな勾配を辿ると基壇部分のピロティ空間へ繋がる。このピロティ空間は基壇部分を囲む回廊となっており、校舎背部へ繋がっている。



敷地模型南東側から

南東側から見ると、校舎がピロティによって浮かび上がっているように見える。



1.西教室
2.土間
3.飼育室
4.ロビー
5.レストラン
6.廃材工房
7.東教室
8.草花遊びの庭
9.個室
10.リビング
11.指導員寝室
12.指導員事務室
13.キッチン
14.玄関
15.洗濯室
16.シャワー室
17.廃材作品ギャラリー
18.受付
19.事務室
20.縁側キッチン
21.便所
22. 浴場

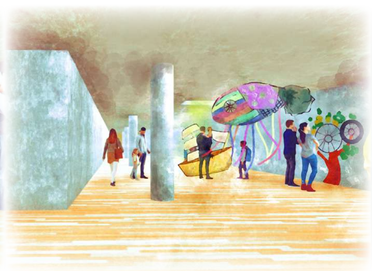
平面図

01.観光客アプローチ　来訪者は基壇部分から木造校舎内部へ入ることで基壇内部空間と木造校舎空間のコントラストを楽しむ。

a.廃材遊具で遊ぶ子どもたちを見ながら潜るように建物へ近づく。

b.基壇部分に入る。

c.受付を通る。左手には広々とした運動場が見える。



d.廃材美術作品を見る。子どもたちの個性的な作品が並ぶ。

e.ギャラリー奥にひっそりと存在する階段を登る。

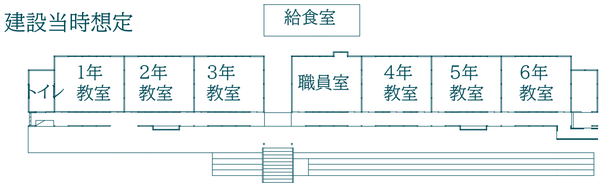
f.階段を登ると木造校舎内部にたどり着く。

g.教室から昔懐かしい廊下に出る。

3. 内部を通り抜けに戻す

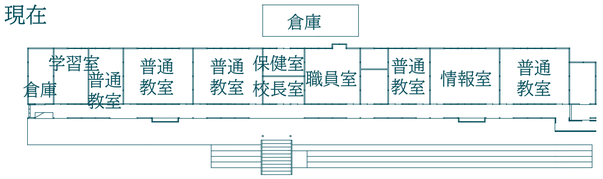
木造校舎の内部構成変化

建設当時想定



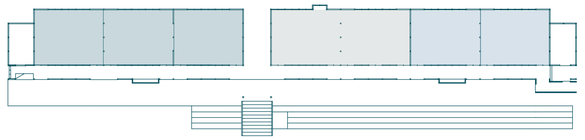
卒業生の方のお話から建設当時の内部構成を想定した。
当時は中央部に通り抜けがあり、その奥に給食室があった。
教室の建具は木製であった。

現在

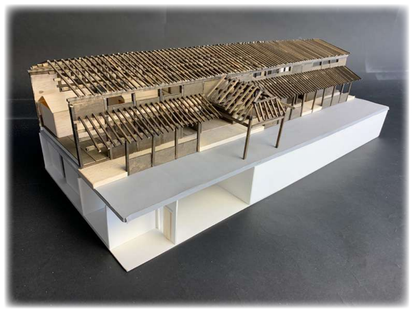


現在は教室が壁で仕切られるなど複雑な構成となっている。
中央部の通り抜けは壁でふさがれた。
建具はアルミサッシとなった。

改築案

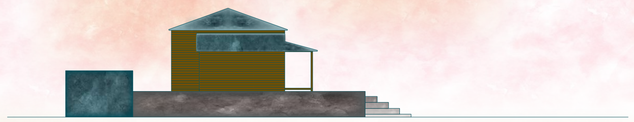


本計画では中央部を通り抜けに戻し、複雑化した壁を取り除くことで内部の構成を建設当時へ近づける。
さらに2、3教室を1つの大空間に繋ぐ。
また建具も建設当時のデザインへ近づける。



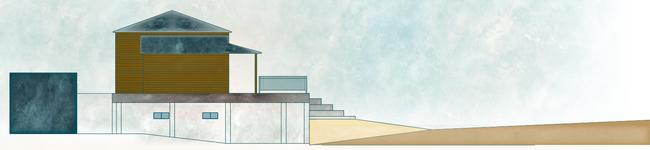
軸組模型　新たに生まれる空間は長い歴史を積んだ校舎とは対照的な真新しいコンクリート

Before　南東立面図

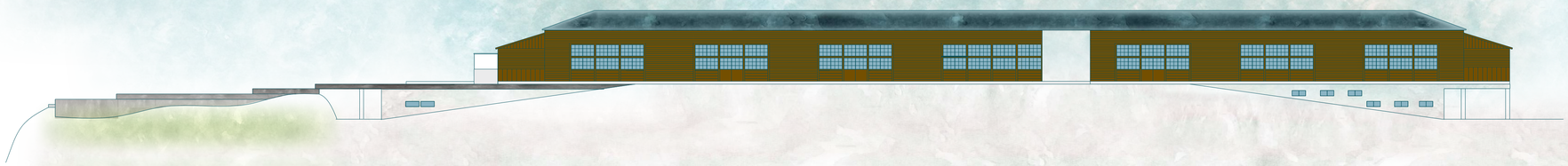


Before　西立面図

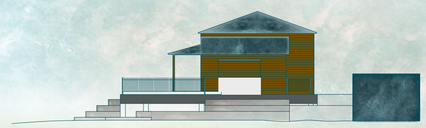
After　南東立面図



After　西立面図



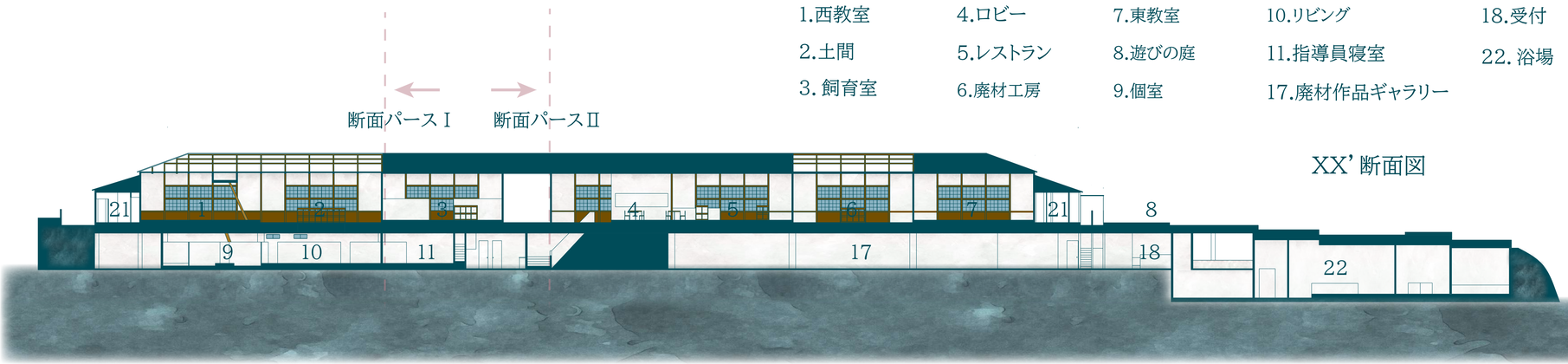
北西立面図



東立面図

0　5　10　20　40

1.西教室
2.土間
3. 飼育室
4.ロビー
5.レストラン
6.廃材工房
7.東教室
8.遊びの庭
9.個室
10.リビング
11.指導員寝室
17.廃材作品ギャラリー
18.受付
22. 浴場



XX' 断面図

02. 繋がる運動場と基壇部
運動場と基壇部分の間に
緩やかな勾配を設け、
運動場から基壇部分への
アクセスを可能にする。

YY' 断面図

断面パースⅡ holiday AM11:00

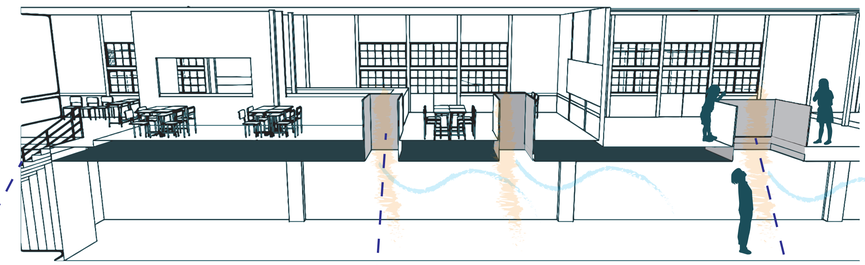
断面パースⅠ weekday PM18:00

03. 廃材美術館ギャラリー、廃材製作工房、レストラン

1. 子どもの発想でメニューを考案する。
2. 一部の材料は観光客や地域住民と協同で育てた作物などを利用する。
3. 学校が休日の時は調理、営業を子どもたちも行う。

1. 地域の産業や地域の方々から暮らしの中でいらなくなったものを集める。
2. 子どもたちの自由で不思議な発想で様々な作品に生まれ変わる。
3. 美術館に作品を展示する。

地域住民、卒業生、観光客と交流が生まれる。

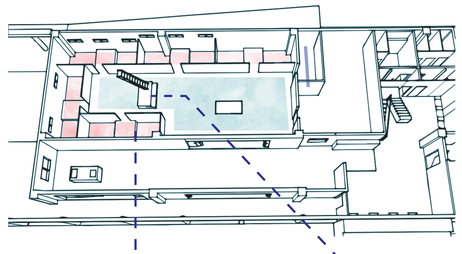


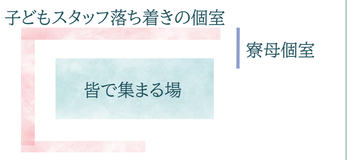
階段を介して近代的な暗めのコンクリートの基壇内部から昔懐かしい木造校舎へと場面が切り替わる。

吹き抜けから窓のない暗めのギャラリーに柔らかい光が差し込む

作品を制作している子どもたちの声が聞こえる。

04. 子どもスタッフの暮らす場所

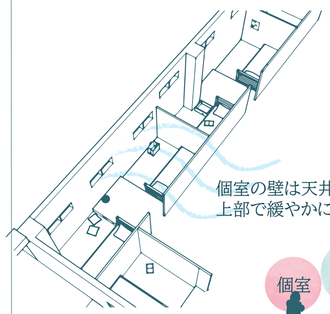




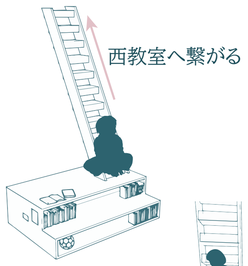
個室と子どもたちが集まる場を柔らかく繋ぐ。

・個室の構成

・校舎へつながるはしご



個室の壁は天井までつけず、上部で緩やかに空間が繋がる。



個室は200mmレベルを下げ、落ち着きの空間を生み出す。

05. ロフト

快適な日はロフトで過ごす。

既存の高窓からの景色を楽しむことができる高さにロフトを設置する。

06. 飼育室

ヤギや鶏、その他子どもたちが捕まえた生き物や植物を育てる部屋である。鶏の卵などはレストランでも使用し、生命を学ぶ。

廃材工房

観光客や地域の方々、卒業生なども製作に携わる。東教室は小さな発表会や、地域サロンなど地域に開けた利用ができる。

レストラン

階段を登ると懐かしい教室空間が現れる。懐かしい小学校の机と椅子で子どもたちが考案したメニューを楽しむ。

縁側キッチン

農体験やイベント時などに気軽に利用できる町のキッチンである。縁側キッチンから、運動場が見える。

飼育室から見た土間、西教室

飼育室、土間、西教室は間の壁を取り除き、一つの大空間とする。

玄関付近から見た子どもスタッフの暮らす場所

引き戸を開け放つと個室、リビング、台所、運動場が一体に繋がる。